

2020年度第2回阿波おどり実行委員会議事録

開催日時 令和2年10月16日（金曜日）午後3時～

開催場所 徳島市役所8階 庁議室

出席者 実行委員5名（欠席1名）徳島県1名 事務局6名

1 開 会

2 議 題 ① 阿波おどりネクストモデル構築事業について

【委員長】

報道等で色々お聞きされていることもあると思うが、11月に阿波おどりの実証実験を行いたいということで、久しぶりの阿波おどり実行委員会の開催について、今まで実行委員会を開催できなかったことも含め、現在決まっていることを話していきたい。

来年度は阿波おどりを開催したいと考えており、今年度阿波おどりが中止になったことで、経済団体には事業者から色々な要望等が上がっていると思う。3割の事業者が廃業を考えているという報道を目にして、やはり徳島にとって阿波おどりというのは本当に重要であるということはこの夏阿波おどりがなかったことで再認識したところである。

11月に阿波おどりの実証実験を行いたいということで、観光庁の支援事業に応募させていただき、無事に採択をいただいたが、内容に関してはこれから詰めていく部分もあると思う。委員皆様の協力をもって、安心安全な形で来年どのように開催していくかを模索するためにも11月に開催したいと思うので、活発な議論をお願いしたい。

【事務局】

資料1 阿波おどりネクストモデル構築事業 事業計画（案）

資料2 新型コロナウイルス感染症対策実施マニュアル（第1版）

上記資料について説明。

【委員長】

事務局の説明にあったとおり、今年度は新型コロナウイルス感染者の急増が心配されるなか、観客や踊り子の安全を第一に考え、阿波おどりを中止することとなったが、来年度は新型コロナウイルス感染症が収束していなかったとしても、何とか安全安心に阿波おどりを開催できるよう、様々な対策について検討を行うことが提案されている。また本事業の実施にあたり観光庁からの支援や徳島県にも経費の一部負担金をお願いしたいと考えているところであり、全国的にも非常に大きな注目を集めるイベントになるものと考えられる。感染症対策マニュアルを事務局において取りまとめているが、感染が

懸念される中での開催になるので、参加する全ての方に準備段階から対策を徹底していただくことが必要である。こうしたことを踏まえまして意見を伺えればと思う。

【A委員】

新型コロナウイルス感染症の収束の見込みが未だたっておらず、今後不透明な状況が続く中で、こうした実証事業を行うことは必要なことだと思う。

今回の実証事業について、スタッフや踊り子、観客が実施マニュアルにある対応策を実証していくということによいのか。

【事務局】

そうである。この実施マニュアルはあくまでも今回のイベント内容についてのマニュアルである。これを基本としながら、来年度の阿波おどりを開催する時には、観客や踊り子の動きが変わってくる部分もあると思うので、本番にはアップデートしたものを考えていく必要があると思うが、今回のイベントに関しては、この実証マニュアルに沿って行うようになる。

【A委員】

実施マニュアルには退場時に観客が出口で混雑、密集しないように入出口を分けるということであるが、今回の実証実験では2日間で4回公演行うということなので、例えば1回目の公演は入口と出口を2カ所両方から分散退場させる方法や2回目の公演ではS席A席B席で順番を分け退場させる方法であるなど、観客が片側で400人ほどなので4回の公演を同じような内容をやるのではなく、方法を変えて色々なことを試して、退場に係る時間や混雑状況を見て、どれが最適方法なのかを見出せるようにしていければ、より良い実証事業になると思う。

このマニュアルは、今回の実証を踏まえて最終的に進化させていくということによいのか。

【事務局】

そうである。

【A委員】

このマニュアルや実証結果が、他市町村で行っている阿波おどりの参考になってくると思うので、しっかりとした物を作っていただきたい。

【委員長】

4回の公演でパターンを変えて実証実験を行うのはどうかという意見をいただいたが、私自身もそのように考えている。実証実験であるので色々な形で検討してみて、どのパターンが一番いいのを考えてみるちょうどいい機会なので、そのような形を取り入れたいと思う。

【B委員】

事業計画の会場レイアウトについて、これまでの藍場浜演舞場の構成と今回実証実験では踊り連の待機場所や長さが変わっているのではないかと思うが、その辺りを伺いた

い。

【事務局】

例年の藍場浜公園では、現実的に踊り連の待機場所がないという状況である。入口には屋台がひしめき合っている状況である。今年度の阿波おどりが予定通り開催されていけば、藍場浜演舞場の入口が非常に危ないということで、屋台の整理をして踊り連が入場できる口を何とか設けようということで、今年度の事業計画を作成していたところである。今回の実証実験では、屋台は置いていないレイアウトにしているので、1,000人近く待機できるようなスペースになっているかと思う。ただ本番の時に屋台を置かずそういったスペースを確保すべきなのか、そういったことは本番に向けて検証の余地はあると考えている。

【B委員】

観客、踊り手、スタッフそれぞれの安全安心を考えるということで、踊り子の待機場所を長くとるということは実証実験として行っていかなければならないと思っている。その結果がどうなるのかにもよるが、8月の阿波おどりにどう結び付けていくか。今の状態では屋台も設置する場所もなくなっている状態になっている。実証実験を行うのは良いことだと思うが、検証結果を残して次に繋げていく必要があると思う。そういった意味では非常に大きな取り組みだと思うので、やれるべきことは積極的にやっていくというスタンスで来年の阿波おどりをぜひ開催するだという意気込みでやっていけばと思う。そのために、できるだけ感染リスクを少なくすることが必要でだと考える。

今回、事務局で色々検討されていると思うが、専門家の意見も必要ではないか。特に新型コロナウイルスに関しては前例がなく模範解答がない状況なので、国から示されたマニュアルを参考にされているとは思いますが、阿波おどりは独自の運営方法があるので、そういったことも踏まえて、専門家の意見も聞く必要があるのではないかと。時間的に制約があるなかではあるが、そういったこともお願いしたい。

【事務局】

専門家について、この実施マニュアルの作成にあたり、観光庁の支援策の中のオンラインセミナーというのがある。計5回開催されて、事務局の担当職員がオンラインセミナー受講している。内4回は感染症対策に関するもので、マニュアル作成ということもあるが、基本的な新型コロナウイルスとはというところから始まったセミナーを事務局で必ず受けるように指示があり受講している。ただ、その視聴ページは採択事業者にしか公開されないページなので、広く共有することができないが、そういった支援を事務局で受けているところである。また、観光庁の支援の中に専門家派遣というメニューもある。ただ全てのメニューが自由に使えるというわけではなく、観光庁から選定するものもあれば、申し込みを行いその結果によって利用できるメニューもある。そういったメニューを利用しながら専門家の支援、まずはオンラインセミナーなどを着実に受講して知識を共有していき、可能であれば専門家派遣等も含めて国の支援を有効活用していければと考えてい

る。

【B委員】

実施スケジュールに観光庁の支援策の専門家派遣と記載があるので、ぜひ活用して専門的な見地から色々意見をいただければと思う。実証実験とはいえ何かあったら大変なので、細心の注意を払い行っていく必要があるかと思うので、ぜひお願いしたい。

今回の議論ではないが、今回は栈敷をメインして取り組むわけであるが、阿波おどりといった場合に、ホールでの選抜阿波おどりもある。また、一番心配なのが委員長も言われていた雑踏、混雑だと思う。今回の実証実験で話ではないが、そういったことも意識しながら行っていく必要がある。聞くところでは、全国で色々なところで観光庁の支援事業に応募して採択されていると伺っている。博多のどんたく、京都の祇園祭り、大阪の天神まつり、あるいは札幌雪祭りそういった屋外の大きなイベントがあるので、そういったところと情報交換しながらしっかりと行っていく必要があると考える。また、近いところで、初詣も雑踏の象徴になろうかと思うので、そういったところも参考にしながら来年に向かって検討していればと思う。

【委員長】

基本的にできることは取り組んでいきたいと話だが、現在の状態では屋台の設置はないが、1日は少なくとも屋台を置くなど事務局の方で検討できればと思う。

先ほどの話でも、徳島の街では、雑踏の混雑の方がおそらく感染症のリスクが高いと思われるので、先ほどの祭りもそうだが、初詣やこれからの人出が考えられるところとの情報交換をしっかりとしていかなければならないと思う。

【C委員】

実行委員自身現場を見に行く必要があると思う。

【B委員】

その方がいい。

【C委員】

踊りそのものよりも雑踏が一番怖い。現場を習熟してなければ、with コロナの中で運営するのは難しい問題である。

【B委員】

やはり県外、国内外からたくさんの人に来ていただいて経済効果を高めていただくというのが一番ありがたいが、一方コロナ禍にあってどこまで妥協するかという妥協点を探る必要もある。

【C委員】

経済団体にとっては、それが一番気になることだと思う。

【委員長】

今回の実証実験では、お客様でチケットを持っていない人も来るかもしれないということも含めて考えていかなければならない。今回栈敷の部分がメインの計画になっている

るが、周りの雑踏については警備員や警察とも連携しながらやっていく必要がある。

【C委員】

スマートフォンを使ってのデジタルチケットとあるが、スマートフォンをお持ちの方でも使いこなせている方はごくわずかだと思うので、十分に対応できるのか心配である。

【事務局】

今回のイベントは座席数が限られていることもあり、デジタルチケット自体が、皆様にとって使い勝手がどうなのかということも検証する必要があると考えている。感染症だけを考えれば、デジタルチケットの方が感染リスクが少ないと思うが、本番の時に本当にデジタルチケットだけでいいのかということも含めて、検証結果を踏まえて議論いただければと思う。

【A委員】

今回のデジタルチケットの販売対象者はどうなるのか。県内に限定するのか、全国に売り出すのか。

【事務局】

現時点ではどういった形でも対応できるというシステムを作るところまではできている。また、事前に踊り団体の意見も聞いており、徳島県阿波踊り協会では安全性を優先して、県民限定にした方がいいのではないかという意見が多く出ており、阿波おどり振興協会では本番が全国に販売するので、全国に向けて販売するべきじゃないかという意見が多いという報告を受けている。例えば協会ごとで日を分けるということも考えられる。踊り子も参加することに対して感染への不安感を持っている方が多くいる。踊り子の意見を踏まえながら決めていく必要があると思うが、明確にどちらでなければいけないということはない。

【A委員】

開催日が3連休の初日と2日目ということで、県外から徳島の方に来られる方もいると思うので、そういった方にも機会を与えるという意味で、阿波おどりの安全・安心を発信できればと思う。

【事務局】

公演の枠組みやチケット販売方法がある程度固まってきたときに、改めて委員の皆様にはお諮りさせていただければと思う。事務局には、県外の方から11月に阿波おどりのチケットをどうすれば買えるのかという問い合わせが寄せられている。GO TO キャンペーンとの話もあるが、キャンセルの関係で県外を受け入れるかどうかは今月中には手配をしたいという声もある。いずれにしても、早めに県外の方も受け入れるのかどうか決定していく必要があると考える。

【D委員】

県内限定か県外にも販売するか、例えば県外に向けて販売するとなると、この感染対策マニュアルには、旅客の方の衛生管理者が設定されていない。県外向けで販売すると、チ

チケット会社か旅行会社が衛生管理者になる。県内限定でいくと890席だったとしても、500台の車が集中すると混雑してしまう。どちらにするのかで計画が変わってくると思うので、その辺りも含めて考えていければと思う。

完全に県内だけでチケット販売するのであれば、チケット購入時に注意喚起を出すことができるか。マニュアルにもあるが、入場の前にその日の体調チェックまでアプリ内で対応できるのか、そこまでしてもらえるのか、また管理者が誰になるのかというのが設定されていないので、そこまでしっかり落とし込んでいただきたいと思う。

また、ニュースでマスク着用を拒否する人に対して、どこまでの権限でやっていくのかを明記したほうが良いと思う。色々なところと情報共有すれば、色々な事例があると思うので、その辺りも入れていただければと思う。

【事務局】

県外客であったとしても、県内客であったとしても、体調管理に関してはお客様自身にやっていただくことは同じだと思う。チケットを購入する際に、事前の周知事項に該当する方はそもそもチケットを購入できないので、同意した上でチケット購入をしてくださいと案内を行う。当日のチェックに関しては調整中であるが、電子的な取り扱いで栈敷に入る方には必ず同意をしていただくように考えている。観光庁に、は全ての告知事項に同意したということを報告しなければいけないと指示を受けているので、それをすり抜けているのは観光庁に対する報告に違反してしまうので、そのチェックはしっかりしていきたいと思う。県内で再開されているイベントを見ると、同意書を集めているケースが多いと思うが、阿波おどりで何万枚も紙を集めるのは現実的ではないので、電子的な取り扱いでできるシステムをチケット事業者につけていただく必要がある。

衛生管理者に関しては、チケットの取り扱いの部分でも衛生管理者を置かなければならないと決まっているので、委託業務の範囲の中で衛生管理の仕組みを作っていただくように委託事業者にも徹底していきたいと考えている。

駐車場に関しては、中央署から十分注意するように言われている。臨時駐車場を設けることを予定していないので、藍場浜地下駐車場や新町地下駐車場辺りで渋滞するのではないかと警察も心配しているので、警備員の配置であるとか事前にホームページでの周知等で極力その部分に対しては対応していくと回答している。

【D委員】

衛生管理者は実施マニュアルに記載されていくのか。

【事務局】

事業者が決まり次第、記載をしていくことになる。事業者側で気を付けなければいけないことも増えていくことが想定されるので、事業者も含めて考えてほしいことをおっしゃっていただければ、マニュアルをバージョンアップしていきたいと考えている。

【D委員】

報告ベースでのマニュアルになっているので、実施ベースで実際にどのような形で行

ったのがわかるようにしてもらえれば、他イベントの参考にもなり、我々委員も確認しやすい。

【事務局】

現在決まっていないのが、入口部分でおどり連と観客の部分で分けて検温ゾーンなどは示しているが、具体的にどこで検温を行うということを会場図に落とし込み、どの順番で行っていくのかをこれから事業者と含めて検討をしていくところである。大きなオペレーションの流れができれば、情報を共有させていただきたい。

【C委員】

外の方を差別するつもりはないが、県外の方がやってくるのは気を遣う。

【A委員】

当然、市民の方かすれば、不安だと思う。

【B委員】

経済効果を考えたときに、宿泊や飲食などの経済の活性化は非常にありがたいと喜んでもらえると思う。市民の方との兼ね合いが難しい。

【C委員】

現在 GOTO キャンペーンだけで、駅前ホテルなどはほとんど満室になっている。

【B委員】

そういった施策に乗かって協議していくのもひとつの手であると思う。

ただ、主役であるところの踊り子が不安を抱える中で、強行するのはどうかと思うので、踊り団体と調整しながらやっていただきたい。

【委員長】

判断が難しいと思う。踊り団体や経済団体の色々な意見を踏まえて事務局で検討して、またフィードバックさせていただきたい。

【事務局】

観客の皆様の安全はもとより、踊り手の安全対策はしっかりしていかなければならない。踊り手は不安を抱える中で、イベントの趣旨に賛同いただいて協力いただけるということなので、できるだけ踊り手の意見、要望をしっかりと受け止め、対応していきたいと思う。また、その中で団体によっては、できれば県内限定で進めていただきたいという意見もあり、一方、本番も見据えて県外のお客様を呼ぶべきだという意見もある。また、具体的に決まっていないが、プログラムにおいて協会によって日を分けたらどうかという話もある。例えば土曜日は県内限定で日曜日は県外限定など、こういった方法も踊り団体と協議したうえで、改めて事務局から案を示させていただきたい。

【委員長】

本日徳島県の方にも出席いただいており、意見をお伺いしたいと思う。

「3の実施体制」の中で、本事業は三者の共催事業として県の協力が必要であり、支援をお願いしたい。

【徳島県職員】

この事業について、三者の共催事業として県の協力をお願いできるかということであるが、県においては9月補正において、ニューノーマル阿波おどり祭典事業として県議会に計上させていただき、議決をいただいたところである。その中で、県内自治体の with コロナ時代に対応した阿波おどりに対する支援につきましても併せて議決いただいたところである。今回の事業については、感染症防止対策や様々な実証を行いながら、安全・安心の阿波おどりを構築していこうという意見があったと思う。また、踊り団体の協力や市外の阿波おどり連のご参加を募るということで、こうした内容につきましては、県の支援事業の要件にもあっている内容であると考えている。県としても、今後、手続きを進める上で三者共催事業として、しっかりと協力していけたらと考えている。

【委員長】

県の協力がいただければ、よりパワーアップした事業ができるので、ぜひ協力をお願いしたい。

事務局でマニュアル、事業計画について、さらに進化をさせて皆様にフィードバックさせていただきたいと考えているので、最終の事業計画につきましては、委員皆様にお送りさせていただいて、決裁手続きは委員長に一任いただいてもよろしいか。

【全委員】

～ 異議なし ～

【委員長】

それでは、そのようにさせていただく。

3 その他

【B委員】

現在実行委員会の委員6人だが、メンバー構成について、例えば旅行関係の方、マスコミ関係の方、直近では弁護士の方も入っていたが、辞職されるとともに補充されていないという状況になっている。6人ですべての知見を持ち合わせているわけではないので、委員の補充を検討する必要があるのではないかな。

阿波おどり運営協議会でも色々と協議されていると思うが、最終の意思決定機関ではない。意思決定機関である実行委員会のメンバーを増やす必要があるのではないかな。

誰がいいとかいう人がいるわけではないが、with コロナという中での実証実験ということで、医学的な専門知識を持った方に実行委員会に入っていただくと心を強い。また、将来の阿波おどりを担っていくという点、20代前後の若い学生を含め、若者の意見も必要だと思う。委員長も女性だが、女性の意見や文化・芸術に造詣が深い方、学識経験者の方、市町村の阿波おどりに取り組まれている方、違ったところの行政機関の方といった、全てではないが、そういった方々に入っていただいてもいいのではないかな。

専門的な知識をもって中立公平な議論もできるなど、広く検討していく必要があると

思うので、委員の立場、市長としての立場、実行委員長としての立場色々あるかと思うが検討いただきたい。

【委員長】

医療という専門的な部分も含めて、実行委員会や事務局の中で検討を重ねていかなければいけない。

【B委員】

少人数であれば意見がまとまりやすいということもあると思うが、知見を持つという意味ではいろいろな専門家にお集りいただければと思うので、ぜひお願いしたい。

【C委員】

医療関係の方は参加いただきたい。特に感染症対策に詳しい方をお願いしたい。

【B委員】

議論していても専門家ではないので自信がない。
オブザーバーとしてでもお願いしたいと思う。

【委員長】

事務局で検討し、また報告したい。
最後に事務局から何か連絡事項はあるか。

【事務局】

次回の実行委員会は、11月上旬を予定しており、次回の委員会においては、人員の配置、開幕セレモニー、チケット販売状況など詳細な事業計画の報告や、コロナウイルスの感染拡大の状況に基づいた開催の最終判断をいただければと思う。

【委員長】

以上を持って2020年度第2回阿波おどり実行委員会を終了とする。